

「文化・生涯学習振興と障がい者スポーツに関するアンケート」実施報告

環境生活部文化振興課及び子ども・福祉部障がい福祉課が実施しました「文化・生涯学習振興と障がい者スポーツに関するアンケート」について、726名の方からご回答をいただきました。

アンケート結果をとりまとめましたので、ご報告します。

(1) アンケート実施期間

令和元年9月4日（水）～令和元年9月25日（水）

(2) アンケート回収状況

対象者数 1,072名

回答者数 726名

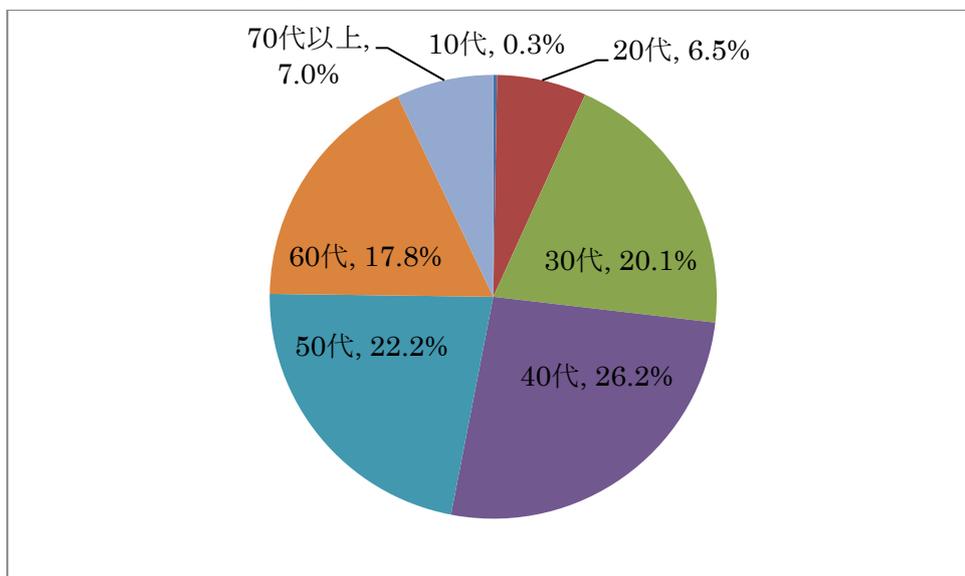
回答率 67.7%

(3) 回答者属性

【年代別】

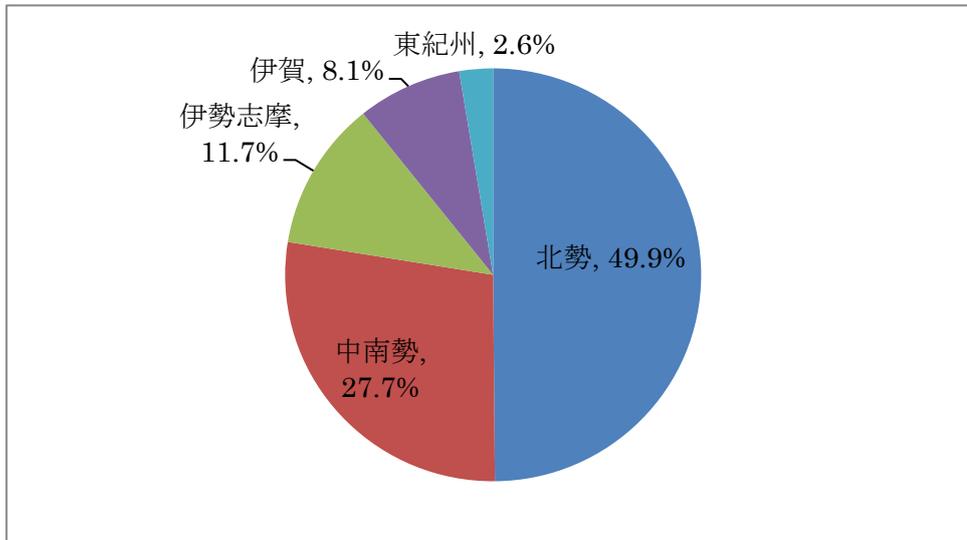
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
回答者数（人）	2	47	146	190	161	129	51	726
割合	0.3%	6.5%	20.1%	26.2%	22.2%	17.8%	7.0%	100.0%

※割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。



【地域別】

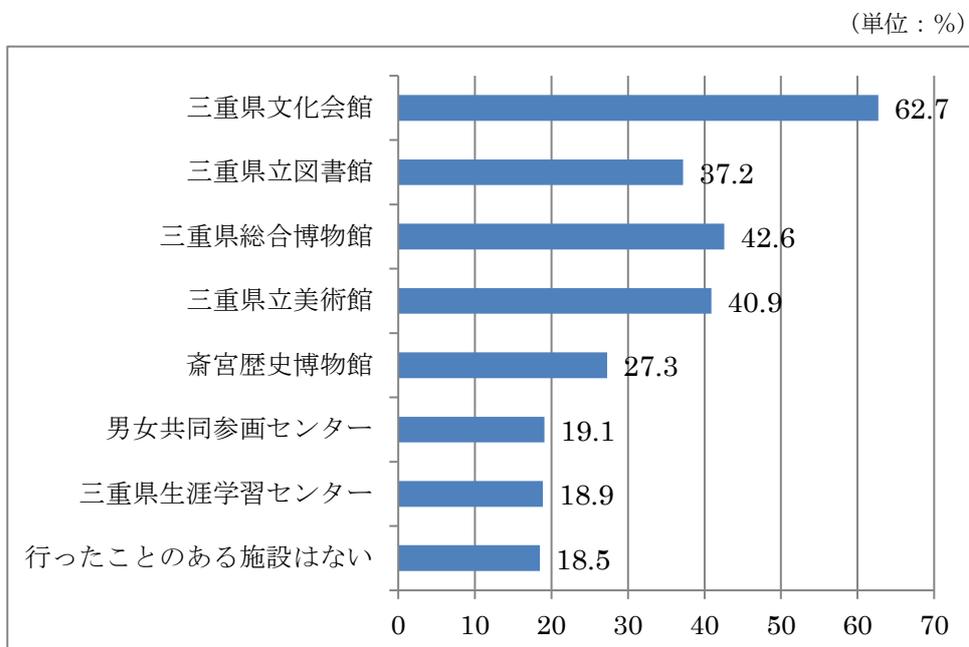
	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州	計
人数	362	201	85	59	19	726
割合	49.9%	27.7%	11.7%	8.1%	2.6%	100.0%



(4) アンケート集計結果

Q1 これまで行ったことのある県立文化施設について

次の県立文化施設のうち、あなたがこれまでに行ったことのある施設はどれですか。

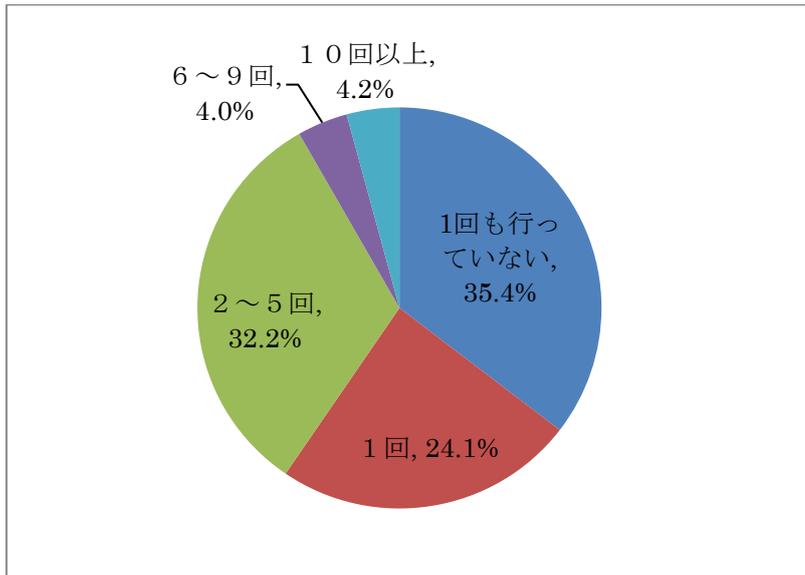


県立文化施設に行ったことがあるとの回答は全体の約8割となりました。個別にみると、「三重県文化会館」(62.7%)が他の県立文化施設と比べて特になくなりました。

これは、同館では他館と比較するとコンサートや演劇をはじめとして、さまざまな公演やイベントが数多く行われているためではないかと思われます。

Q 2 昨年1年間で県立文化施設に行った回数について

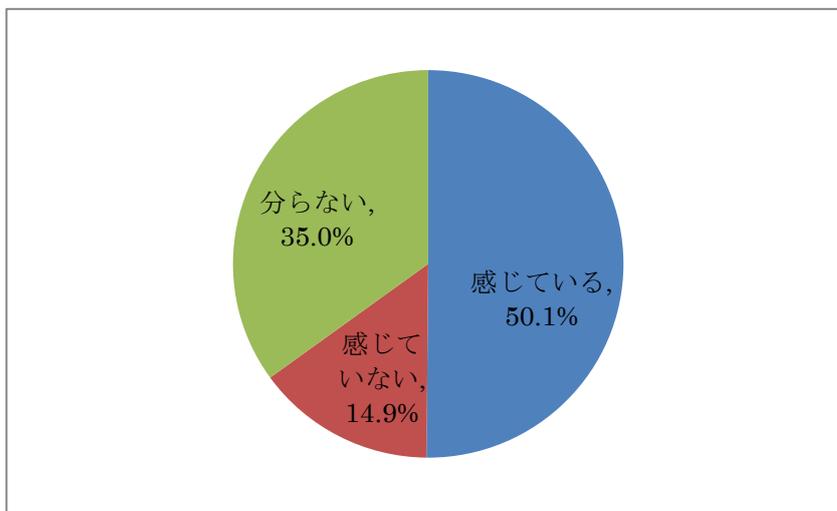
あなたは、昨年1年間で展覧会や公演、イベント等のため、県立文化施設に何回ぐらい行きましたか。



Q 1 でこれまでに県立文化施設に行ったことがあると回答した方を対象に、昨年1年間に県立文化施設に行った回数をお聞きしたところ、「2～5回」(32.2%) が最も多く、次いで「1回」(24.1%)、「10回以上」(4.2%)、「6～9回」(4.0%) の順となりました。一方で「1回も行ってない」(35.4%) との回答もありました。

Q 3 県立文化施設において文化芸術にふれたり、学んだりする機会について

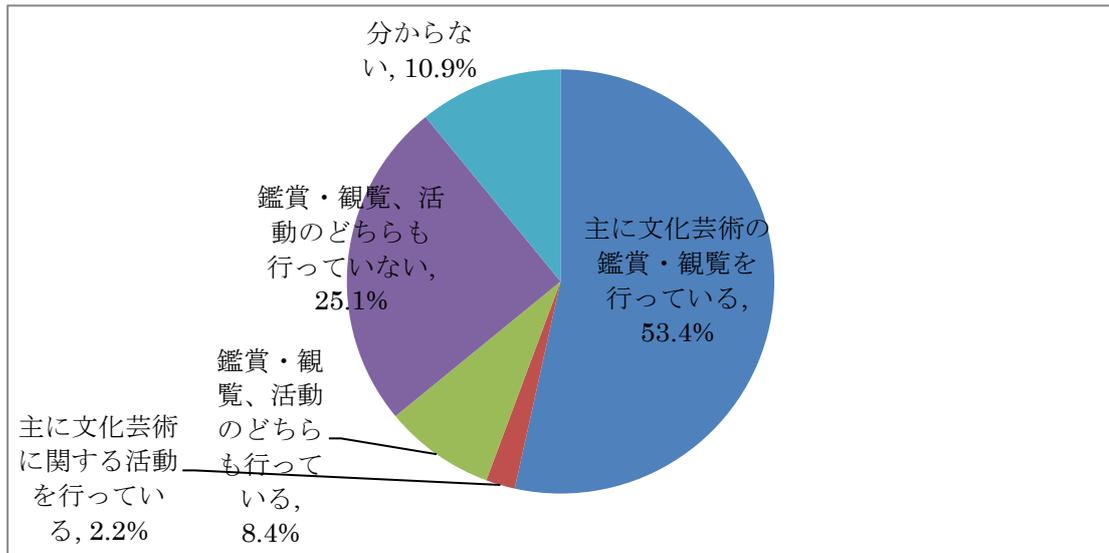
あなたは、県立文化施設で開催される展覧会や公演、イベント等において、優れた文化芸術（芸術性の高いもの、おもしろくて楽しいもの）にふれたり、学んだりする機会を得ることができると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。



「感じている」(50.1%) との回答が半数ある一方で、「感じない」(14.9%) 又は「わからない」(35.0%) との回答も約半数ありました。

Q 4 文化芸術にふれ親しむ方法について

あなたが日常生活で文化芸術にふれ親しむ方法として、最も近い行動はどれですか。

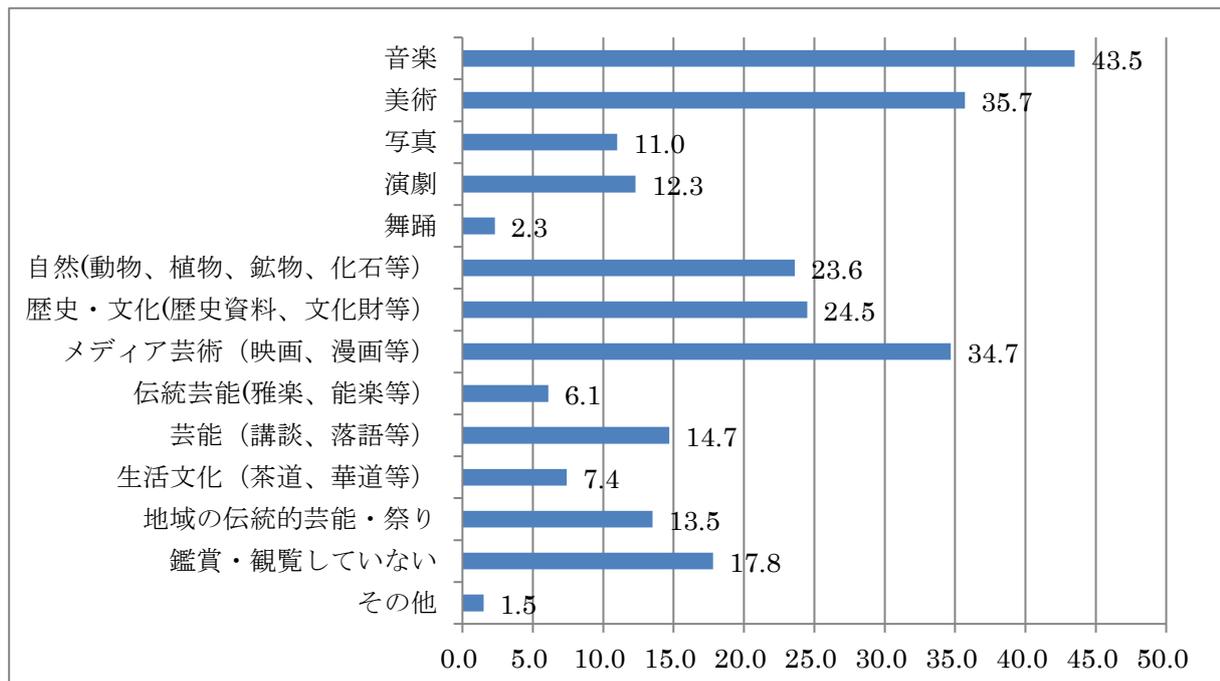


「主に文化芸術の鑑賞・観覧を行っている」(53.4%)が最も多く、「鑑賞・観覧、活動のどちらも行っている」(8.4%)、「主に文化芸術に関する活動を行っている」(2.2%)の順となりました。一方、「鑑賞・観覧、活動のどちらも行っていない」(25.1%)との回答もありました。

Q 5 鑑賞・観覧した文化芸術のジャンルについて

昨年1年間にあなたが鑑賞・観覧した文化芸術のジャンルは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)



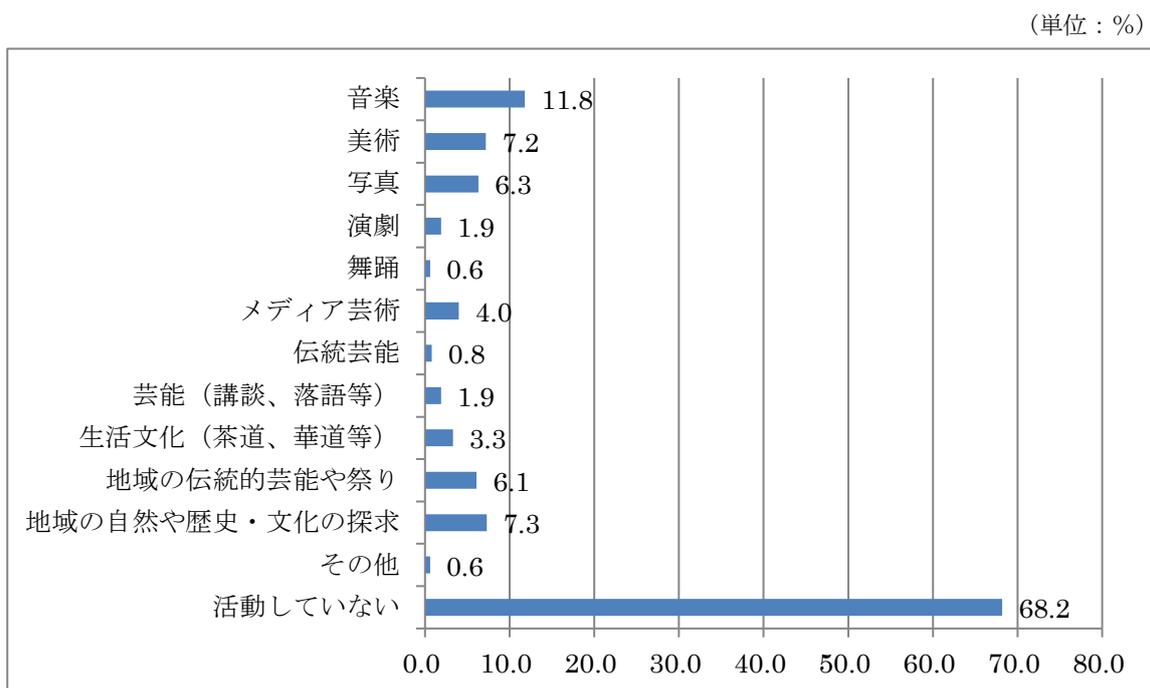
「音楽」(43.5%)、「美術」(35.7%)、「メディア芸術(映画、漫画、アニメーション等)」(34.7%)が上位を占めています。

なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・ F 1に関する公演
- ・ 刀剣類の展覧会
- ・ 住んでいる地域にいい施設がないのに加え、時間的余裕がない

Q 6 活動した文化芸術のジャンルについて

昨年1年間にあなたが活動した文化芸術のジャンルは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



「音楽」(11.8%)が最も多く、「地域の自然や歴史・文化の探求」(7.3%)、「美術」(7.2%)、「写真」(6.3%)、「メディア芸術(映画、漫画、アニメーション等)」(4.0%)の順に多い結果となりました。

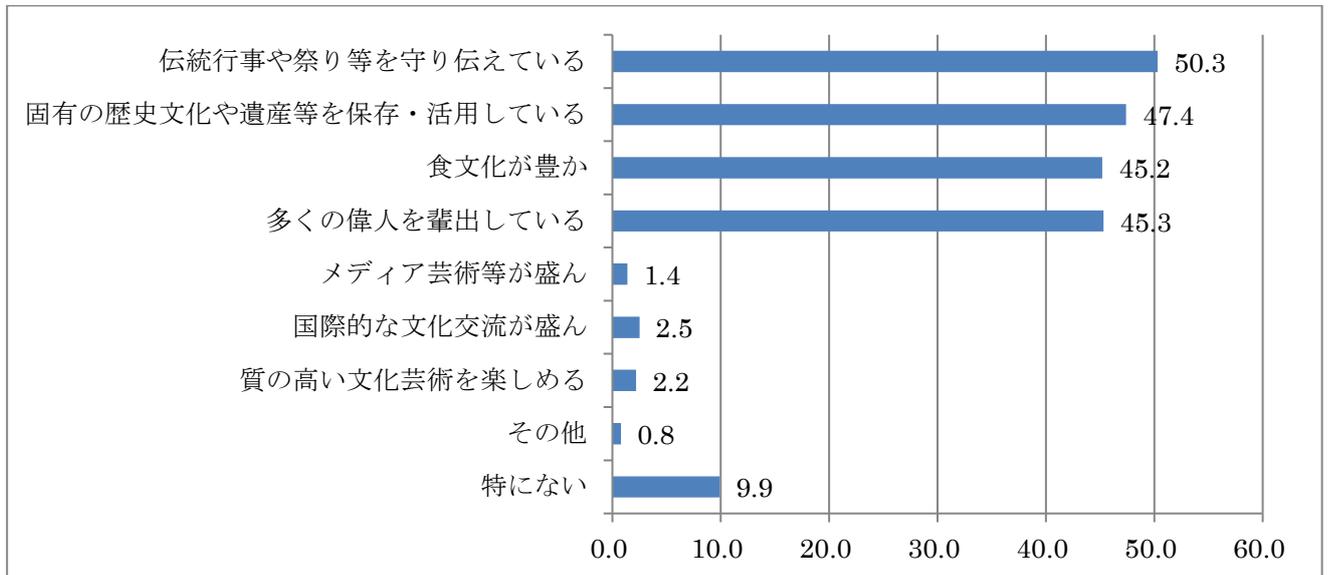
なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・ 絵手紙
- ・ 障がいを持っている子供がバンド活動をしているので、そのサポート

Q7 三重県の文化の特徴だと思うものについて

あなたが三重県の文化の特徴だと思うものはどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

(単位：%)



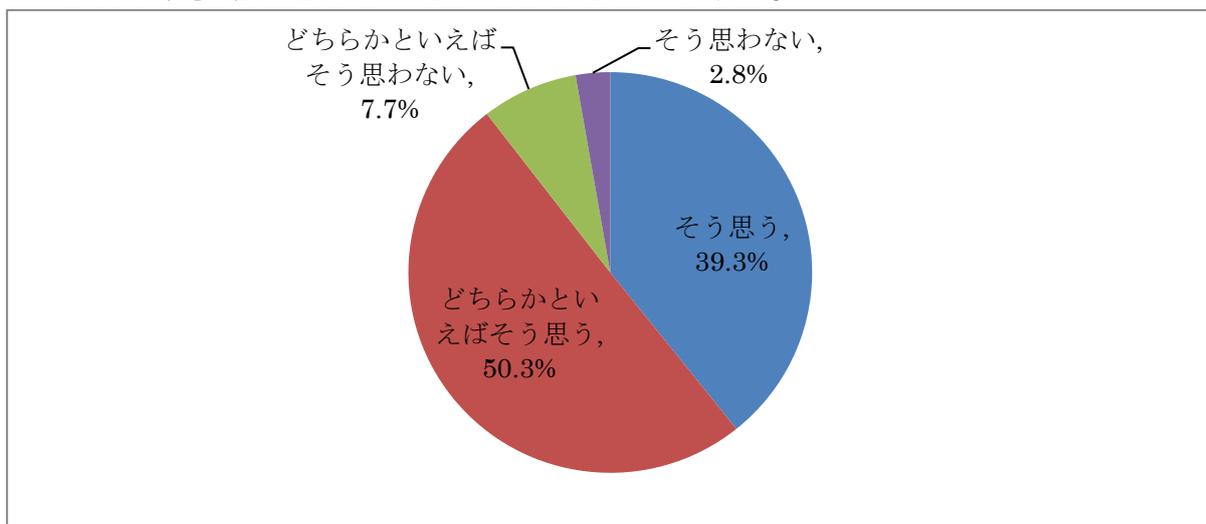
「伝統行事や祭り等を守り伝えている」(50.3%)、「固有の歴史文化や遺産等を保存・活用している」(47.4%)、「多くの偉人を輩出している」(45.3%)、「食文化が豊か」(45.2%)が上位を占めました。

なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・伊勢神宮
- ・多彩な観光資源

Q8 三重県に対する誇りや愛着について

あなたは、三重県には全国的あるいは国際的に誇ることができる歴史的資産等があり、愛着を感じることはできると思いますか。



昨年度のアンケート結果と比較すると、「そう思う」(39.3%)の回答率が1.1ポイント下がる一方、「どちらかといえばそう思う」(50.3%)の回答率が3.4ポイント

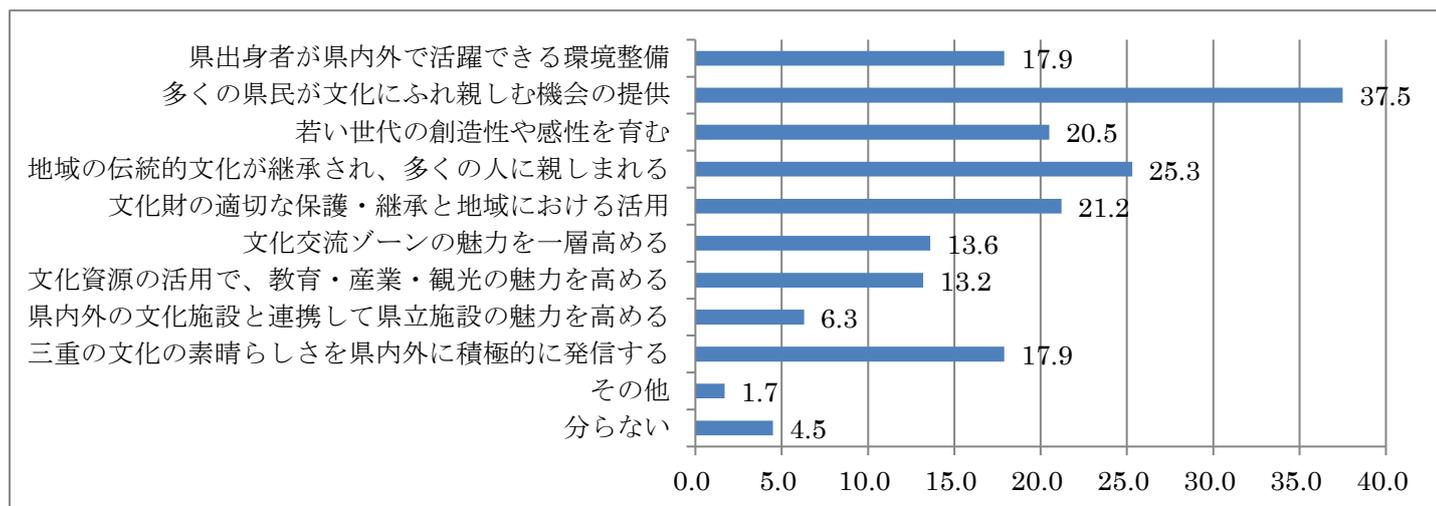
ト上がりました。この2つを合わせると、昨年度に比べ2.3ポイント上がり、約9割の方が三重県に誇りや愛着を感じているという回答になりました。

Q9 今後県が力を入れるべき文化施策について

あなたは、県は今後どのような文化振興施策に力を入れるべきだと思いますか。あてはまるものを2つまで選んでください。

※選択肢内の文化交流ゾーンとは、三重県総合博物館の整備を契機として、新たに魅力あふれる「県民の学び・交流・体験の場」となるよう発展を目指す県立美術館を含めた県総合文化センター周辺地域のことです。

(単位：%)



「多くの県民が文化にふれ親しむ機会の提供」(37.5%)が最も多く、「地域の伝統的文化が継承され、多くの人に親しまれる」(25.3%)、「文化財の適切な保護・継承と地域における活用」(21.2%)、「若い世代の創造性や感性を育む」(20.5%)の順に多い結果となりました。

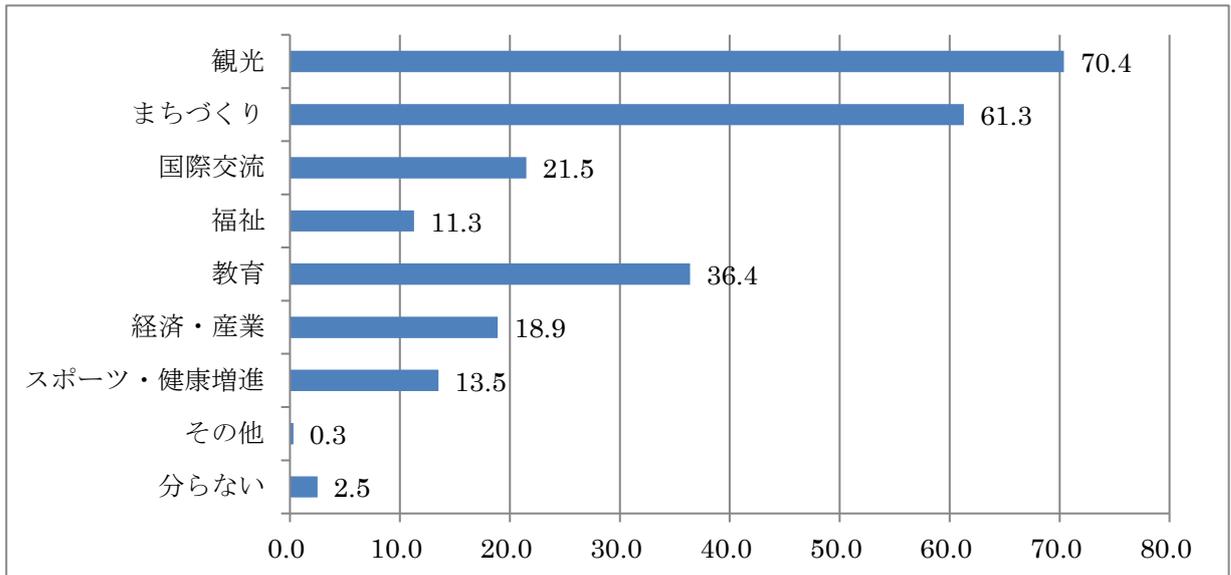
なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・表現者が自由に表現できる場を提供すること。
- ・県北部だけでなく尾鷲以南にも文化振興の力を入れてほしい
- ・旧街道、宿場街の整備と発信
- ・裾野を広範に美術に携わっている人の作品を募集展示する
- ・ほとんどの施設が津市内にあるため、公平に施設を建設する

Q10 文化芸術を生かしたら良いと思う分野について

あなたは、文化芸術をどのような分野に生かしたら良いと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

(単位：%)



「観光」(70.4%)、「まちづくり」(61.3%)、「教育」(36.4%)、国際交流(21.5%)が上位を占めました。

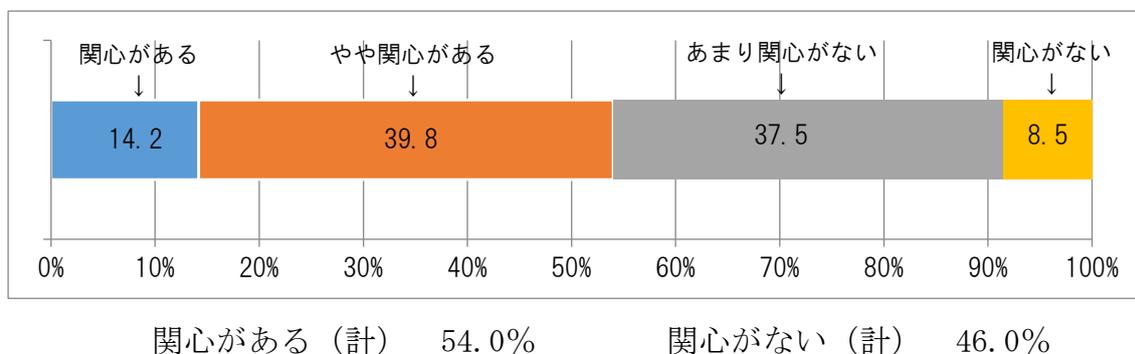
なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・全国へのアピール

Q11 障がい者スポーツへの関心度について

障がい者スポーツとは、障がいがあってもスポーツができるように障がいに応じて競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障がいを補ったりする工夫等がされたスポーツのことですが、あなたは障がい者スポーツに関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

(単位：%)



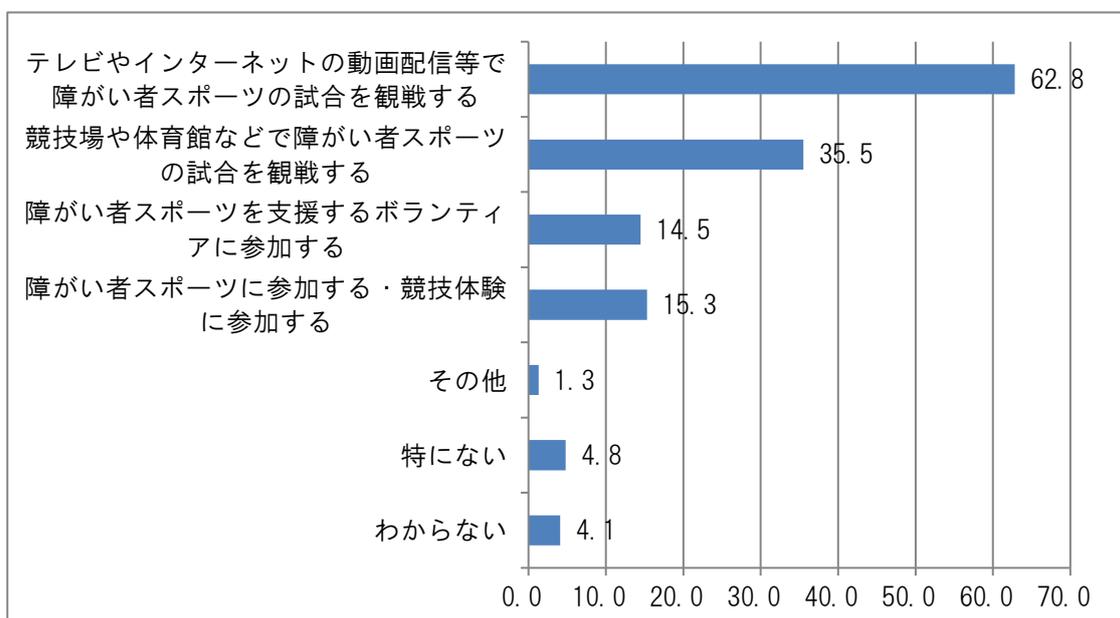
障がい者スポーツへの関心度についてお聞きしたところ、関心がある (計) (「関心がある」と「やや関心がある」の合計) が 54.0%、関心がない (計) (「あまり関心がない」と「関心がない」の合計) が 46.0%となりました。

Q12 障がい者スポーツに関して経験してみたいことについて

Q11で「関心がある」「やや関心がある」と答えた方にお聞きします。

あなたは、これからどのようなことを経験してみたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)



Q11で「関心がある」「やや関心がある」と回答した方を対象に、どのようなことを経験してみたいかをお聞きしたところ、「テレビ等で障がい者スポーツの試合を観戦する」(62.8%)が最も多く、次いで「競技場等で障がい者スポーツの試合を観戦する」(35.5%)、「障がい者スポーツ・競技体験に参加する」(15.3%)、「ボランティアに参加する」(14.5%)の順となりました。

なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

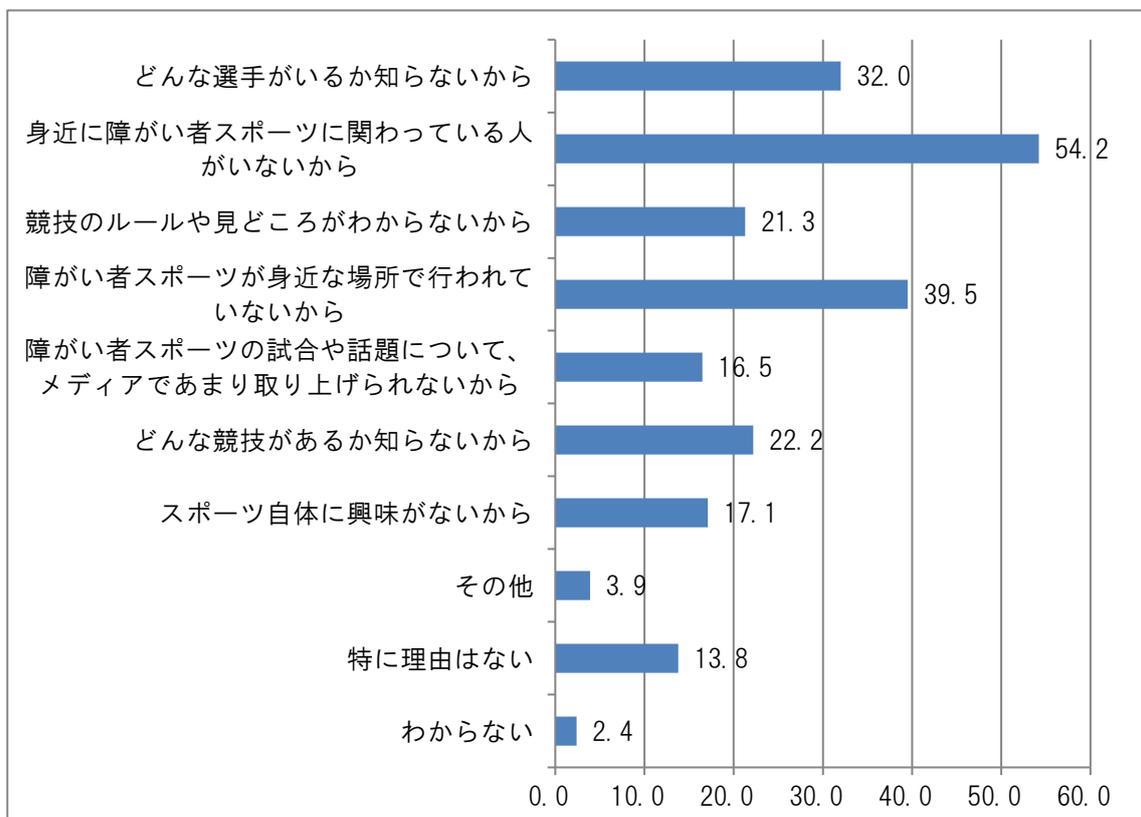
- ・特別な機会を設けるのではなく、日頃から障がいの有無に関わらず参加できるスポーツの場を増やし、気軽に参加したい。

Q13 障がい者スポーツに関心がない理由について

Q11で「あまり関心がない」「関心がない」と答えた方にお聞きします。

あなたが、障がい者スポーツに関心がない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)

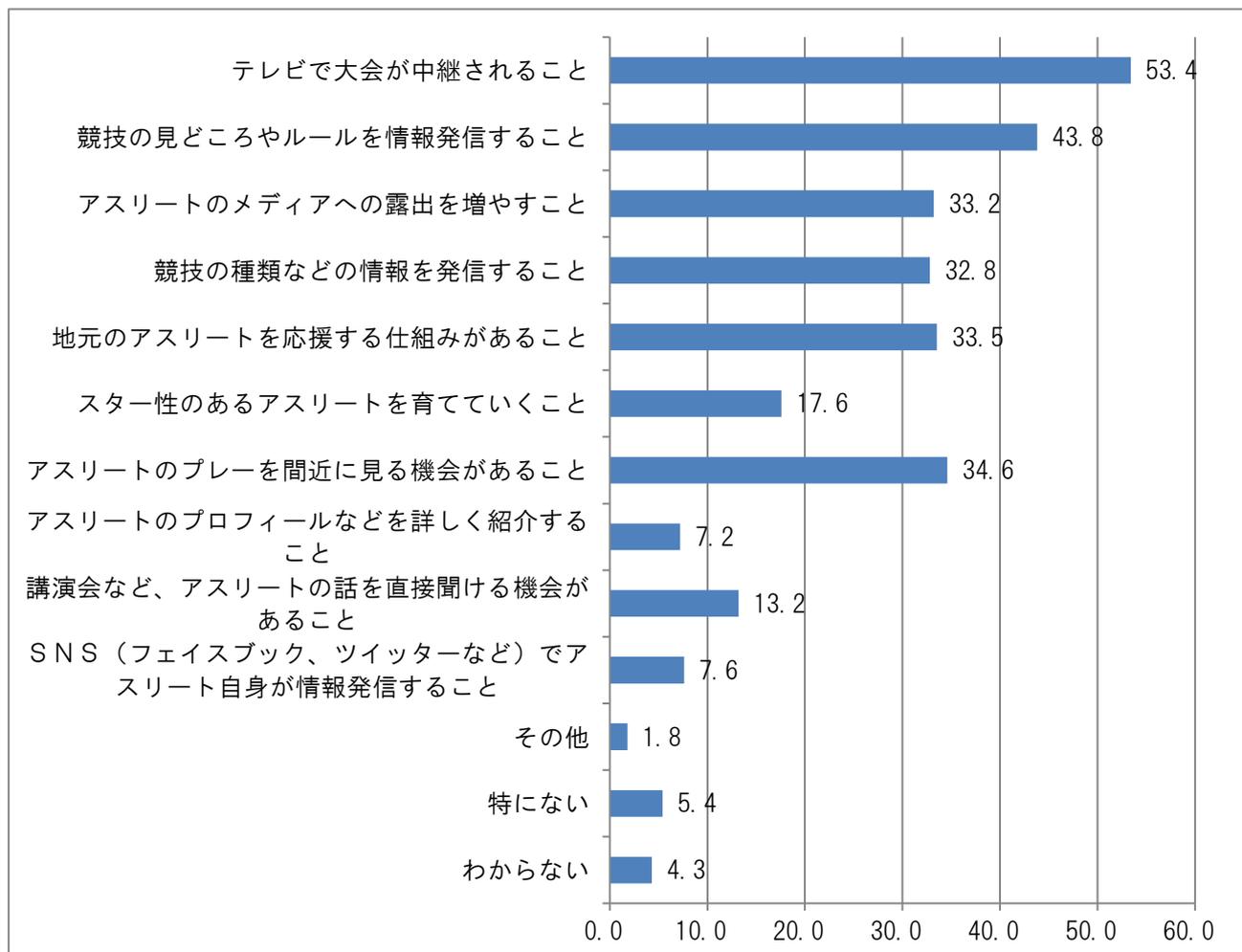


Q11で「あまり関心がない」「関心がない」と回答した方を対象に、障がい者スポーツに関心がない理由をお聞きしたところ、「身近に障がい者スポーツに関わっている人がいないから」(54.2%)が最も多く、次いで「障がい者スポーツが身近な場所で行われていないから」(39.5%)、「どんな選手がいるか知らないから」(32.0%)、「どんな競技があるか知らないから」(22.2%)、「競技のルールや見どころがわからないから」(21.3%)の順となりました。

Q14 障がい者スポーツへの関心を高める取組について

あなたは、どのような取組があれば障がい者スポーツへの関心が高まると思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)



障がい者スポーツへの関心を高める取組についてお聞きしたところ「テレビで大会が中継されること」(53.4%)が最も多く、次いで「競技の見どころやルールを情報発信すること」(43.8%)、「アスリートのプレーを間近に見る機会があること」(34.6%)、「地元のアスリートを応援する仕組みがあること」(33.5%)、「アスリートのメディアへの露出を増やすこと」(33.2%)、「競技の種類などの情報を発信すること」(32.8%)の順となりました。

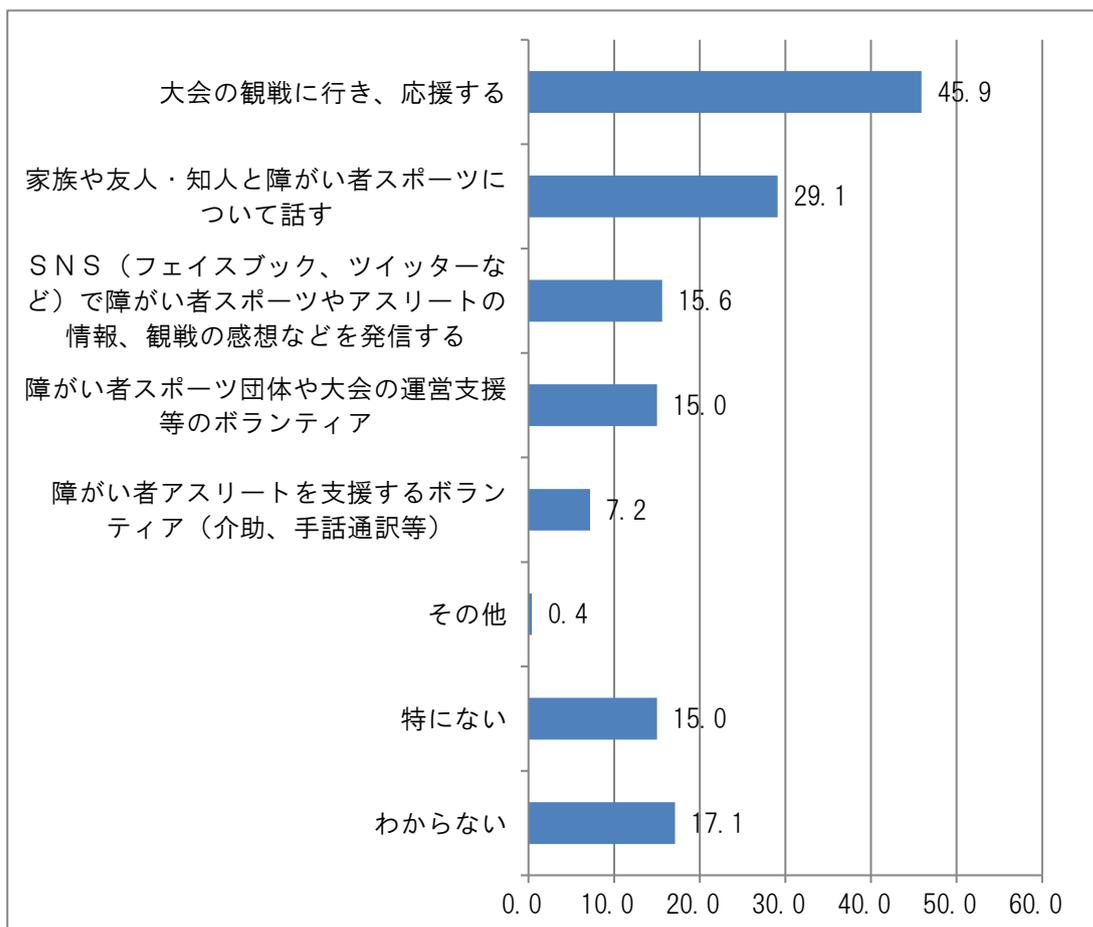
なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・実際にその競技をやってみる。
- ・障がい者でも健常者と一緒に競技や試合ができるようにすればよい。

Q15 障がい者スポーツ団体や障がい者アスリートへの支援について

あなたが、障がい者スポーツ団体や障がい者アスリートへの支援としてできることはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)



障がい者スポーツ団体や障がい者アスリートへの支援についてお聞きしたところ「大会の観戦に行き、応援する」（45.9%）が最も多く、次いで「家族や友人・知人と障がい者スポーツについて話す」（29.1%）、「SNSで障がい者スポーツやアスリートの情報、観戦の感想などを発信する」（15.6%）、「障がい者スポーツ団体や大会の運営支援等のボランティア」（15.0%）の順となりました。

また、「わからない」（17.1%）や「特にない」（15.0%）という回答も多くありました。